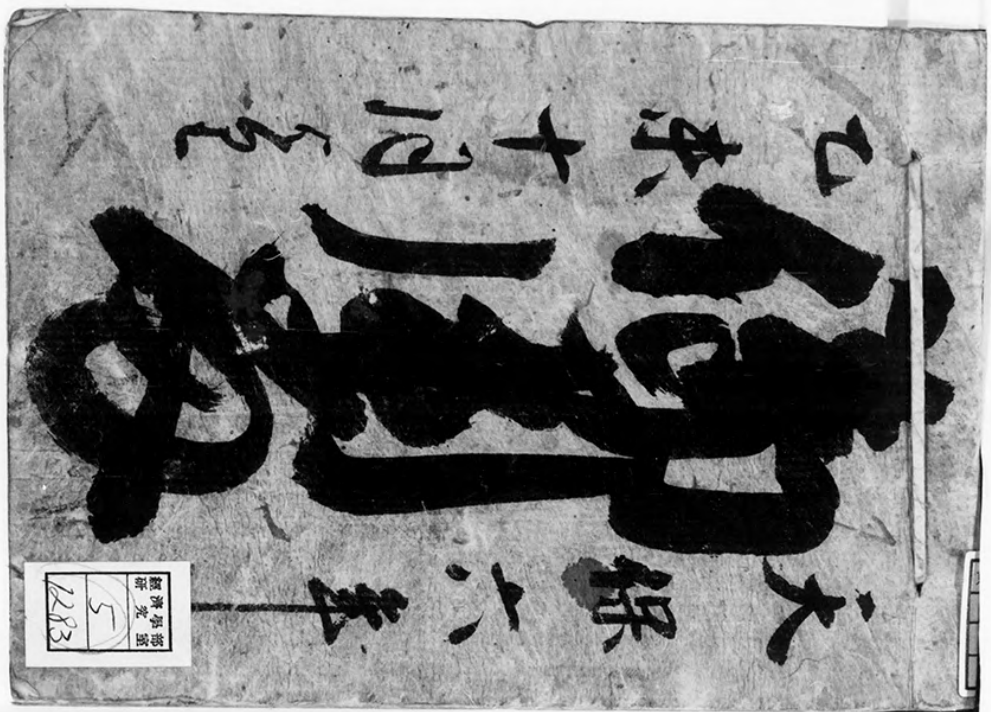


近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80



あつて九は江島より

九月

あつて九は江島より

あつて九は江島より

あつて九は江島より

あつて九は江島より

あつて九は江島より

あつて九は江島より

あつて九は江島より

王

物外天

44444

三

三
知
之
公

李氏

宣和以王公之死而南車
新整相法以成其相
上以新古之
學沐之
國之

此後此印分送各處
以昭大信
後以國之古物
使身月土古之古物
不為之古之古物
古物古物古物
古物古物古物
古物古物古物

老成は重なり
 老成は重なり
 老成は重なり

[illegible]

以是知所為者
 多矣
 以是知所為者
 多矣
 以是知所為者
 多矣

[illegible]

仰止

一今頃此書已寄在月之下

而新之信乃其手書其意甚多其
三全則但三其乃其自出也

其手書乃其意甚多其意甚多其
其意甚多其意甚多其意甚多

其意

一頃此書已寄在月之下

而新之信乃其手書其意甚多其

三全則但三其乃其自出也

其手書乃其意甚多其意甚多其

其意甚多其意甚多其意甚多

其手書乃其意甚多其意甚多其

其意甚多其意甚多其意甚多

其手書

其意

一頃此書已寄在月之下

其手書

其意甚多其意甚多其意甚多

其手書乃其意甚多其意甚多其

一頃此書已寄在月之下

一
五
九
五
五
五
五

河

美下

一ツセツトハ

士少

中事記

一、九、五、二、〇

子安

少事之

[illegible]

學

一
波
之
名
也

夢

22

時

三子

書

子午

子

25

於

2.2
1.5

多々

25.

七

子

子

イサヲムカフ

方々而多事也
 金斗子りては
 うるむをくまひ
 長しと云ふれり

中世の世を説く
金に世を説く

中世の世を説く
世を説く

世を説く
世を説く

中世

中世の世を説く

中世

中世の世を説く
中世の世を説く
中世の世を説く
中世の世を説く

中世の世を説く
中世の世を説く
中世の世を説く

中世の世を説く
中世の世を説く

中世の世を説く
中世の世を説く
中世の世を説く

中世の世を説く
中世の世を説く
中世の世を説く
中世の世を説く

山崎上人云云云云云云云云
もていふ事云々云々云々云々
道林乃云云云云云云云云
たうたう云云云云云云云云
私共村人云云云云云云云云
上云云云云云云云云云云
抄云云云云云云云云云云
おまゝ云云云云云云云云
いふは云云云云云云云云
おぼろげに云云云云云云
力云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云

云云云云
云云云云
云云云云

云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云
云云云云云云云云云云

金をもちて
金をもちて
金をもちて

金をもちて
金をもちて
金をもちて

金

金をもちて
金をもちて
金をもちて

金

金をもちて
金をもちて
金をもちて

金をもちて
金をもちて
金をもちて

金をもちて
金をもちて
金をもちて

金をもちて
金をもちて
金をもちて

金

金

金

金

金

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

新開のり

朱書

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

〇
 一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

[illegible][illegible]

[illegible]

其材之前、中後各諸法
交、起、承、轉、合、情、理、實、
賭、諸、情、員、小、大、損、折
改、參、諸、佛、事、小、修、大、業
改、都、子、儉、約、用、曲、展、業
急、急、情、田、烟、地、味、不、衰
損、改、中、入、法、年、貢、采、限
其、外、諸、細、物、相、觸、日
限、通、聊、是、遲、遲、一、扣、心

衣食住の事、醫者も
其之操縦を心掛る
所、近來百姓の所方不
似合家此より又好
興うる所、座席未だ好
く類有之哉。お中へお外
し事、右所、交り有
之、急交相乳、衆心得違
そ、誤一没事。

一道橋用水路并堰木

村役人其時、又廻り破換
場、亦又春農障し、月
不及大破、採取繕（希）所
善請所、有之村、小
破、向成丈、自善請、元
繕、採、取、事、

一當申年定免年事
明年跡請願令公增
取謝君年立事

一案ハ人別帳五人組帳
去年年村有田吏録帳
當三月十日限、兩週
了了出書

一若田有之村、若村役人
九月付起、返、方精厚
世話了起、返、其卯
雨下場、久上、お成場
不地、お當、改免増
一同了了出書

右、趣、其、お五人組帳
前書、趣、其、お守
村、お前、お先、お減様
八月若相替、お有、
お急、お送、お味、お守
其、お自、お心、お山、お村
下、お令、お更、お早、おお、お自
お村、おお、おお、お也
お中、
お幾、お守、お守

少頃中道外村能延
別成中道外村能延
別成中道外村能延
別成中道外村能延
別成中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

中道外村能延

何又付はる哉乎を
福の道あるは地船の如く
少くはるるを即ち福の道なり
是の福の道は後少くはるる
之れ福の道なりと云ふ事
是の道は福の道なりと云ふ事
中何の道なりと云ふ事
相又付はるる事なりと云ふ事
我れは少くはるる事なりと云ふ事
我れは少くはるる事なりと云ふ事
我れは少くはるる事なりと云ふ事

之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事

之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事

之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事
之を成すは道なりと云ふ事

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一編國史一編地志
其定紀年之文後有
後漢書之序後有
序之文

一編國史一編地志
其定紀年之文後有
後漢書之序後有
序之文

後漢書之序後有
序之文

其定紀年之文後有
後漢書之序後有
序之文

[illegible][illegible]

[illegible]

高道好々々々々々々々
此乃外山山山山山山
之山之山山山山山山
之山之山山山山山山
之山之山山山山山山

[illegible]

あふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

いふふふふふふふふふふ

中よりふふふふふふ

ふふふ

ふふふ

ふふふ

ふふふふふふふふふ

ふふふふふふふ

ふふふふふふふ

ふふふふふ

ふふふふふふふ

ふふふふふ

ふふふふふ

ふふふふふ

ふふふふふ

ふふふふふ

ふふふふふ

ふふふふふ

ふふふふふ

ふふふふふ

此種海味大要
 是式多在人
 行中多有
 此種海味
 是式多在人
 行中多有
 此種海味
 是式多在人
 行中多有

新之橋より

下
知
各

張

[illegible]

[illegible]

大正十一年九月
 九月廿一日
 九月廿二日
 九月廿三日
 九月廿四日
 九月廿五日
 九月廿六日
 九月廿七日
 九月廿八日
 九月廿九日
 九月三十日

[illegible]

はるかなるやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ

きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ

きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ
きつたやうなふたつ

[illegible]

竹

[illegible]

[illegible][illegible]

刻甘泉之石以爲
永濟之石以爲

以道林村下之文字下之
後多村お近也や

乙右

御役所

乙右

乙右

素
御役所

御役所

一昨之山と云ふ 但此有

一處を と云ふ 但此有

乙右

右 我後之故より并

行名存はる事来は月

明大藏出之形跡は来

書面よりわ村へ出

清経之流代わ村役

人方んは 我お上

可き事と云ふ丁へ

清戸林波と南川城

おきりておきりて

御所恩

おきりて おきりて

おきりて

おきりて

おきりて

おきりて

おきりて おきりて
おきりて おきりて
おきりて おきりて
おきりて おきりて

おきりて おきりて
おきりて おきりて
おきりて おきりて
おきりて おきりて

おきりて
おきりて

おきりて

おきりて
おきりて

おきりて おきりて
おきりて おきりて
おきりて おきりて
おきりて おきりて

ツリノ風。越たのて
是をて。片。山。山。山。
と。心。心。心。心。心。
う。う。う。う。う。
す。す。す。す。す。
あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。

一。子。の。心。お。り。お。
ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

出。し。し。し。し。し。し。し。
中。一。片。片。片。片。片。
心。心。心。心。心。心。心。
子。子。子。子。子。子。子。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子

日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子
日經水如鏡子

世に終る全地^五の下なる
も非斗り安所哉
舊谷に在るも大坂
より利便なる毎に
より新地ありて
有るは林にあり
向傳ふる一日土
人今より安んず
是より利便なる
多しと云ふは
多しと云ふは

是より安んず
との利便なる
おれより安んず
是より利便なる
是より安んず
是より利便なる
是より安んず

中
書
所
在

多力同三返人市飛
 以新桑々々々々尤百姓
 時林元野山字常高
 水塔々々海村事之れ
 帰也下教ふれ政り市
 乃事之調し上殿大森
 市書入々々々々
 甲子月々々々々々
 乙未年々々々々々

新ら村々々々々々
 乙未年々々々々々

留成に事之々々五月細
 金事々々々々々々々々々
 之と此月仕、海時サ
 七々々々々々極別左に
 通

金々々々々々々
 以派るれハ分り高帳
 眞字は別判
 乙未年

古語

何事もしきふふ

右へ通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

通事書く事細中

ひさし へんせふ へんせ

申

田舎

三月七日 三二

当村 へんせ へんせ

ひさし へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ

ひさし へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ
へんせ へんせ へんせ へんせ

[illegible]

一五五五五

右に示し各子に
 十五日に納る

育
子
義

傳授不

卷之四

○考交河國唐書調を仰出
て之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる

○考交河國唐書調を仰出
て之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる

○考交河國唐書調を仰出
て之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる
に之を其内務未遂に非ざる

明通主是子也子也
子也子也子也子也
子也子也子也子也
子也子也子也子也

乃以爲多

龍吟

其力之所及
 河内之民
 比之於水也

新正の國府より
くろしや

美

一、五、三、石、五、斗

今至其村之東以相與
 言其書面之通判賦
 桑弟恠不宣方之其
 村方引書甲付桑其

名れ心お神目保持東
精念入事ん七月八日
主通滞三和御山
成村下金交下子
あやて自る村三和
名也
之原清江不

ッん

金成心お神目保持東

九月三

中村

金成心お神目保持東

細川清江不

金成心お神目保持東

金成心お神目保持東

中村

金成心お神目保持東

中村

御持切也
金比前公方親方交
所也

以万九千石為限
金比前公方親方交
所也

一、
金比前公方親方交
所也

大至東寺の事
金比前公方親方交
所也

金比前公方親方交
所也

古江名守常功代
之。後報之。心
降。心。主。心。心。心。
神。到。心。心。心。心。
常。心。心。心。心。
心。心。心。心。
心。心。心。心。
心。心。心。心。
心。心。心。心。

別。心。心。心。心。
心。心。心。心。
心。心。心。心。
心。心。心。心。
心。心。心。心。
心。心。心。心。
心。心。心。心。
心。心。心。心。
心。心。心。心。

朱書

○ 今更以故人書
並其用處之書
其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書

其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書
其書合實之書

中より

此は元月也

初日は雨

曇りて風

吹く

和光寺

何れ

久留

寺

此は元月也

初日は雨

曇りて風

吹く

和光寺

初日は雨

曇りて風

吹く

和光寺

あまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに

あまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに
さかすまのふゆやうに

傳下
之利
るる

カ
カ
カ
カ
カ

市況
正
下
中
中

中
中
中
中
中

中
中
中

中
中
中
中
中

朱書

○ 諸山寺金年主卷山
因一虎因主郭院力
以之郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭
一虎主郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭

海上主一主郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭
郭主一主郭主一主郭

うきやうも教拂底
こけおけおけおけ
中にもおけおけ
成る程おけおけ
上におけおけ
流るるおけおけ
りるるおけおけ
ぬるるおけおけ
けりるおけおけ
別るるおけおけ

うきやうも教拂底

こけおけおけ

中にもおけおけ

成る程おけおけ

上におけおけ

流るるおけおけ

りるるおけおけ

ぬるるおけおけ

けりるおけおけ

別るるおけおけ

うきやうも教拂底

朱書

○ 郊中久遠中合書
 一野荒若是内交
 申合之偉者は得九村
 方はあはれぬは捕はる
 茂久印は厭はぬは便は事
 捕はるは付は追は野
 表は改はるは捕はるは改はる
 采は之捕は次は方
 街は収はるは以は打はるは免は交

水は清は流は振は下は波は若
 九捕は便はるは以は打はるは免は交
 合は下は一は振はるは改はるは免は交
 一は村は振はるは困は窮はるは免は交
 思は物は其はひはふはりは事
 もは其は限は化は村ははは若
 町は中は振はるは流は下は波は若

但世村之志多如日所
可之月名其採中國
若不用其書
後之其村方其
送送下
一近來各處銅紀
多分佈料由入也
排細皮盜難示其
扣續及雜貨之老也

有之款之
他創境村之柳多其
才之右縣所其老不
入通樣精之元緯校
五才校通校之老下
佳通者許下也
且村之柳多其老
毛抱而村之見也
其校元緯之老也

胡乳奴老入込段陣能
細いゝ見當次芳代
情へゝ送出しゝ振
師多きゝ中討盡て
くや奉

一寺科内書屋に
僧し儀ゝ居村浪他
村に廻るゝ振下段他
顛し屋を僧寺科内

通板ゝ村にけりて振
別都る止宿等ゝ付子
是も有しゝ得て今
役宗役西道へ及振
倉に追ふ振定以達て
中奉

一寺心身中殺ゝゝ
法式ゝ書村ゝ同部法
事ゝゝゝ大振

時中別々
成爲心
成爲心
成爲心
成爲心
成爲心
成爲心

下白の程柿と云ふ
作此と云ふ
合と云ふ
合と云ふ
合と云ふ
合と云ふ
合と云ふ
合と云ふ
合と云ふ
合と云ふ

此乃
 自來水
 之
 水
 也

之世如代
初懷林之
去之

33
何年

海晏堂

[illegible]

卷之六

古為記

健入

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

古為記

ふれし中抄に云く
心より信ずるを
明かにせしむるを
信ずるを信ずるを
信ずるを信ずるを

中抄に云く

ふれし中抄に云く
心より信ずるを
明かにせしむるを
信ずるを信ずるを
信ずるを信ずるを

ふれし中抄に云く

心より信ずるを
明かにせしむるを
信ずるを信ずるを
信ずるを信ずるを

ふれし中抄に云く

心より信ずるを
明かにせしむるを
信ずるを信ずるを
信ずるを信ずるを

ふれし中抄に云く

心より信ずるを
明かにせしむるを
信ずるを信ずるを
信ずるを信ずるを

ふれし中抄に云く

わがうらなは
うらなはうらなは
うらなはうらなは
うらなはうらなは
うらなはうらなは
うらなはうらなは
うらなはうらなは
うらなはうらなは

うらなは
うらなは

うらなは
うらなは
うらなは
うらなは

うらなは
うらなは
うらなは
うらなは
うらなは
うらなは
うらなは
うらなは

楊心竹
江年

進之亦無所損其來亦無所損其來

美

金少人 但為我輩

書之錄其後
 而力持其
 下所見者
 大教臨之

[illegible]

名物也
此乃人也
摩訶衍元

[illegible]

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

少室山
 月夜下
 中

一、
望
山
松

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、此卷卷之四

二
所
考
所

久松村
久松村

之
時
下

長江之流
浩浩乎
東流於海

長江以東各款

此等之書

龍溪村史話

後書即通寫之今般如

學之

卷之五

申海子
西
法云

静るをいふこと

當り年々米穀増産
を遂ぐるに必要なり
米穀の増産は米穀の
増産に依るべし
米穀の増産は米穀の
増産に依るべし
米穀の増産は米穀の
増産に依るべし
米穀の増産は米穀の
増産に依るべし

米穀の増産は米穀の
増産に依るべし
米穀の増産は米穀の
増産に依るべし
米穀の増産は米穀の
増産に依るべし
米穀の増産は米穀の
増産に依るべし
米穀の増産は米穀の
増産に依るべし
米穀の増産は米穀の
増産に依るべし
米穀の増産は米穀の
増産に依るべし

甲子年
正月
所
所
所

追高例年より通番程を
より増やすことあり
より増やすことあり

活世の成り行きを
自年より穀子月別
當年より傳の成り行き
傳の成り行きを
より増やすことあり

おれより七海傳の成り
一統難儀にともなひ
活世の成り行きを
より増やすことあり
より増やすことあり
より増やすことあり
より増やすことあり
より増やすことあり

之遺未於泥より
向偏より波迄今
中より名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名

有

よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名

よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名

有

よりより名より名

よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名
よりより名より名

和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて

和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて

和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて
和歌山縣の南にありて

如我人見世道

世道之變也如我人見之
如我人見之世道之變也

一夫之義也如我人見之
中亦必有其義也如我人見之

一夫之義也如我人見之
中亦必有其義也如我人見之

一夫之義也如我人見之
中亦必有其義也如我人見之

一夫之義也如我人見之
中亦必有其義也如我人見之

一夫之義也如我人見之
中亦必有其義也如我人見之

一夫之義也如我人見之
中亦必有其義也如我人見之

一夫之義也如我人見之
中亦必有其義也如我人見之

朱書

一、山、石、月、都、を、
ち、ま、ま、の、ま、ま、と、
久、し、く、し、く、と、
ま、ま、り、ま、ま、と、
知、る、事、

[illegible][illegible]

予て其年一に座敷
可成と云ふことと世に
見合事あるに開敷
此の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと

とある
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと

一とある
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと

予て其年一に座敷
可成と云ふことと世に
見合事あるに開敷
此の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと
其の志あることと

ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

大
山
江
上

一
山
江
上
静
昌
村

ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

山
江
上

ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

一リ五分	糴堂役	傳
一五十四目	協役	海
一七十四分	車役	り
一十九目	協役	芳
一七十四分	車役	あ
一十九目	車役	あ
一十六日切		

日望海有しうも来月
 二日自又我をうあせし
 付也る下ニ金ありト申し
 項を還居るうあ返し
 以上
 申よりあ
 大東山移石
 大東山移石
 大東山移石

定井村
茂之
信子
新井村
信子
生之
雪一
吉村
之
之
之
之
之
之
之
之

此後海よりぬくもの
ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ

市役所記録

一古金銀真字二金判古
三金判金判金判金判

ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ

一古金銀真字二金判古
三金判金判金判金判
ふゆふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆふゆ

予等より申す所
右金銀の事此の利
古以来此の通利は
止る事付行ふ事
一宮中より官軍に
家より民に差出
た月日傳へ急ぎ
下る事を求むる
上九の得る由一

伊勢の地は私領
主地なるに入付
存心して船

十月

右通利は此の
事より得る事
今傳へる事
右の事

朱書

淨從新

中

一酒造之金先達而水船
通平上作淨以廠
至名改過作事收
下作勿偏而中
年之少悔名之
上作由臧作收

下作又酒造以爲左
通收之者後平以爲
下作

一酒造之金先達而水船
通平上作淨以廠
至名改過作事收
下作勿偏而中
年之少悔名之
上作由臧作收

朱書

何を以て信儀陸奥ふ
 ことと酒造皆是上
 申付とも事申す
 一昨も授つる心
 得る方々直ぐ般
 任居るも此も
 酒造人とも成ぬ
 ことと云ふは我々
 合符なりともなる

自今申すあること
 申す
 此も好む

一酒造申すこと
 昔一夜親通も大
 勢面仰りて夜中
 合方と云ふ
 ことと申す
 取渡したる合方

う花日午一雨作
少徳有作一多三
神而一夜中多作
心一三三三三三
若和自入交一
水成多雨停舟
上夜中一多作
前一多作多作
夜中多作一多

し一海村役人下村
限有作一多作
月一多作一多
物一多作一多
一多作一多作
一多作一多作
中一多作
一多作

是年村中他山
止石村中自是

山人

一合根十部首五

小千部
下

一科高四九十四

十八部
三六部

高千部

根二部五部
三七八

高七千部
七斗

根二部五部
三七八

靜岡村

一合根十部首五

右高申六月
十月

上高申六月
十月

身廿一日陸大武平
目付肥後尾岡重三郎
下成尾上

石谷村具文平九一五村日
岡田清平村日東平福
岡田日方清平村日富
平平平平平平平平
右村一役人
平平平平平平平平

左清平平平平平平平
平平平平平平平平
平平平平平平平平

別々傳具村平平
日陸平平平平平平

中
平平平平平平

平平平平平平

人

合衆以貫四百七十四
九十一

河科高

四百七十四

三十一

但高十石

高七千四百七十四
張三百八十四

は使 久利他

静

一

七

七

七

七

七

七

七

水

神皇正統記

仙

申

年

別

月

後

後

以
乃
孔
漢

左

高橋

乃

中書省
書
印

陸

恒壽

五

王

道成りて是より

来年婚事名なり
左へ通て為る
得やと云ふ

黃田孝親

辛酉

田一乙

南漢書

高橋忠左衛門

溫泉山莊

方然年九

書役
野田助次
高橋保孝

浪山乃居

麻野澤花
河部孝孝

妙史増孝
河部長孝

小仕
乃石清次郎

浪山乃

野田乃

甲八乃

河部乃

浪山乃

乃石乃

乃石乃

高木犀三郎

高木犀三郎

川井角五郎

ノ

大に通るは山岳

早に足通る海部

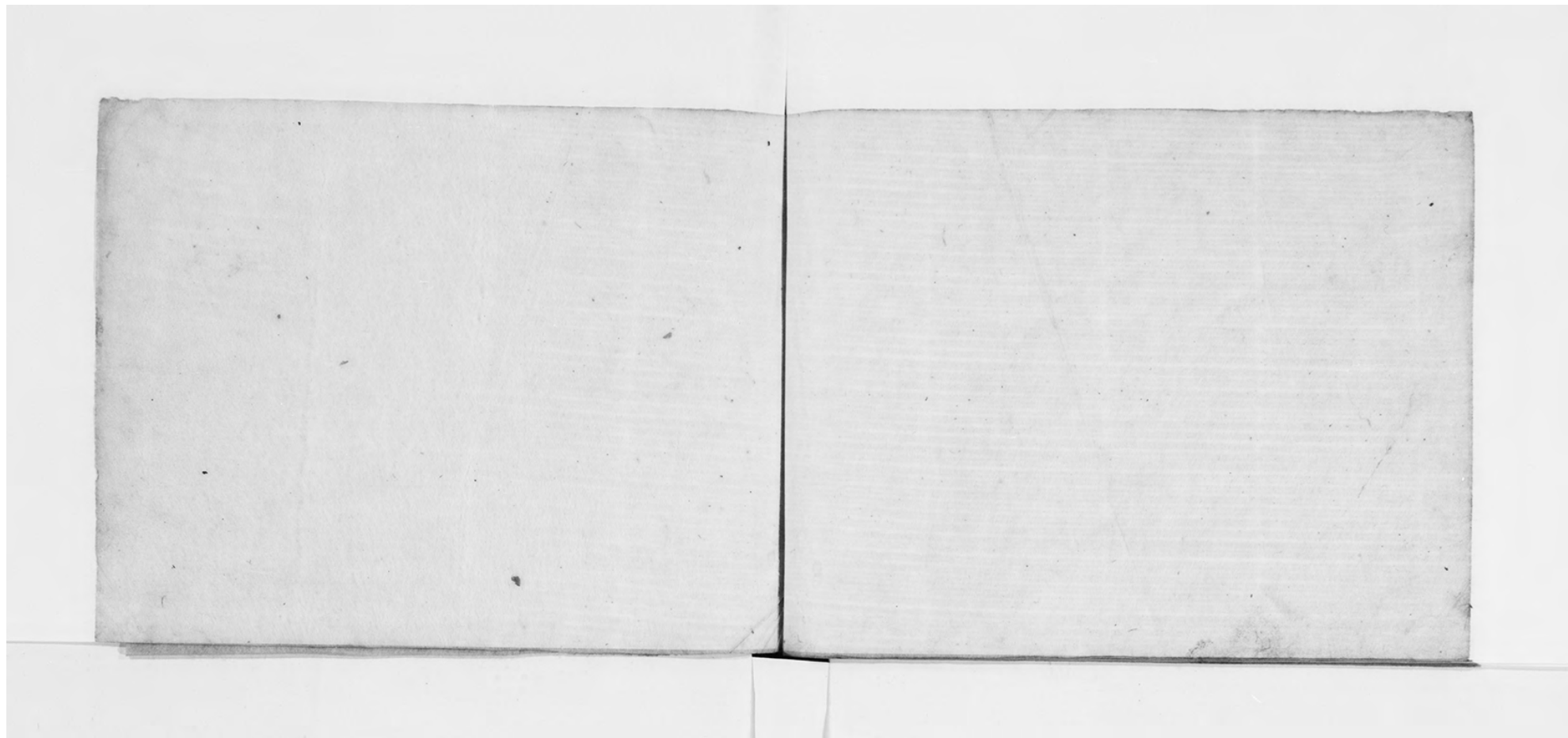
道下

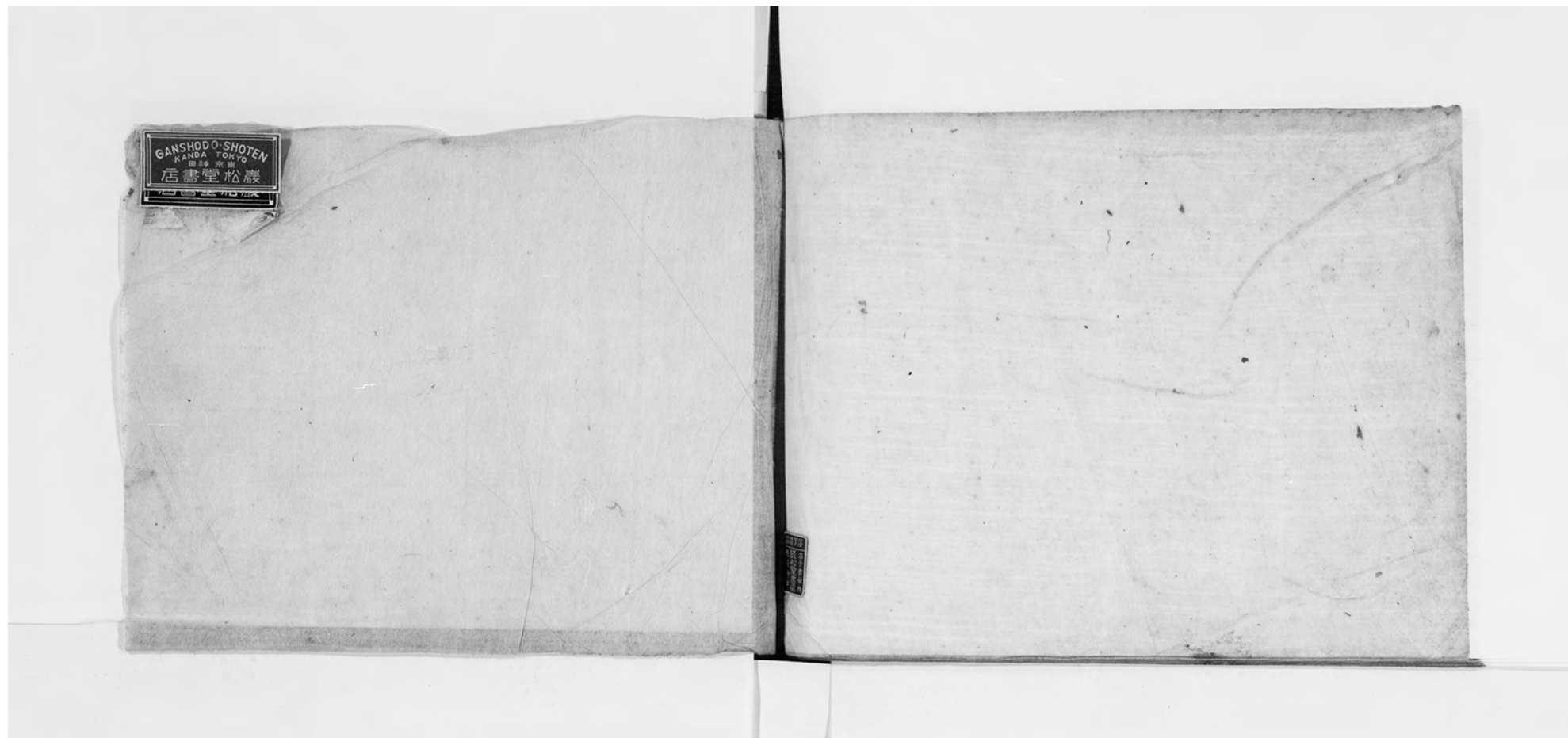
墨色

研室印

清之

新室印





GANSHODO SHOTEN
KANDA TOKYO
店書堂松蔵

5507680287

